

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-2
自然とのふれあいの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

自然環境課長 森脇 幸

電話番号

0852-22-5346

事務事業の名称	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	
目的	(1) 対象	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者
	(2) 意図	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す
事業概要	「明日の日本を支える観光ビジョン」で提言された国立公園のナショナルパーク化としてのブランド化に向けた、環境省の新規事業「国立公園満喫プロジェクト」に大山隠岐国立公園が選定された。これを機に県内自然公園（国立公園、国定公園、県立自然公園）の外国人利用者への対策や中国自然歩道などの安心安全対策を行い、自然公園の活用を図って、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す「しまね自然公園満喫プロジェクト」を実施する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 大山隠岐国立公園（島根県内）訪日外国人利用者数	目標値		11.0	14.0	17.0	20.0	千人
		取組目標値						
	式・定義 平成28年の国立公園訪日外国人利用者数	実績値		11.0				%
		達成率	-	100.0	-	-	-	
2	指標名	目標値						千人
		取組目標値						
	式・定義	実績値						%
		達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	6,609	282,897
うち一般財源 (千円)	3,305	141,599

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

これまで県内自然公園を活用した外国人観光客の受入対策は、ほとんど行われていなかったのが実態。平成28年7月、国立公園満喫プロジェクトとして、大山隠岐国立公園が全国8カ所のモデル公園の1つに選定され、外国人の受入環境の整備や体験プログラムを実施するなど、5カ年間の全体事業計画（ステップアッププログラム）を12月に策定した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

「大山隠岐国立公園満喫プログラム2020」を策定したことより、平成28年度から5年間の国立公園の事業計画が明らかとなった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・県内自然公園の案内看板や標識、遊歩道、ビジターセンター等が多言語対応などインバウンド対策がなされていない。
- ・また、自然歩道に倒木、落石や施設の老朽化が目立っており、安全安心対策が必要な箇所が多数存在している。
- ・外国人利用者を満足させる体験プログラムの開発やツアー造成が不十分であり、また、情報発信力も弱い

②困っている状況が発生している「原因」

- ・外国人の訪日観光客数が年々増加しているが、これまで、自然公園の外国人利用をあまり想定していなかったため、外国人対応が遅れている。
- ・また、倒木や落石対策、施設の老朽化などの安全安心対策も遅れている。

③原因を解消するための「課題」

- ・外国人利用者に対応するために自然公園への案内看板や標識などの多言語化、ビジターセンター、遊歩道やトイレの洋式化など、施設や設備の整備を計画的に実施する必要がある。
- ・外国人利用者を満足させる体験プログラムの開発やツアープログラムを造成し、情報発信力を強化する。
- ・外国人が自然公園を利用する拠点（ビジターセンター）の整備が必要

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・国立公園満喫プロジェクトの拠点整備として、三瓶自然館のビジターセンター機能を強化する必要がある。
- ・利用者が迷わず公園にたどり着けるよう案内看板やサインの整備、多言語化を行う必要がある。
- ・安心安全、快適に利用できる自然歩道等の施設の整備と適切な維持管理を行う必要がある。
- ・地域（市町村・民間事業者等）と連携して体験プログラムの開発やツアーの造成支援、ガイド養成・受入スタッフの養成支援をする必要がある。
- ・ホームページやパンフレット、MAPの作成など情報発信力を高める必要がある。